平成３０年２月８日

議席番号　　２５　　番

通告番号　　番

前

平成３０年２月８日　午　　時　　分 受 領

後

氏　　名　小田桐　たかし　　㊞

流山市議会議長　秋間　髙義　様

市 政 に 関 す る 一 般 質 問 通 告 書

第　１　回定例会における一般質問を下記のとおり通告します。

質問事項	要旨　（質意を明確、具体的に）
１　市長の政治姿勢について	（１）安倍内閣ではアベノミクスで賃金や雇用が改善したとする一方、低所得者の生活水準が下がったという理由で生活保護を削減する方針について ア　子どもの貧困などが社会問題化するもとで低所得者の生活水準が下がったことこそ改善すべきと考えるがどうか。 イ　生活保護の削減による影響について （ア）子どものいる受給世帯は深刻な影響を受けることについてどう捉えているのか。 （イ）全ての子どもの生活・発育・進学に欠かせない就学援助や特別支援教育就学奨励費、保育料、学童保育料、障害福祉サービスの利用料上限、難病患者への医療費助成などにも影響することになるがどう捉えているのか。 （ウ）いま開かれている第１９６回国会で、安倍首相も「生活保護への偏見をなくし、必要とする方には確実に保護を適用する」と答弁しているように生活保護への偏見や保護は恥とするような見方を変える必要があると思われるが見解を問う。 （２）近隣市やＴＸ沿線各市で導入済みの非婚家庭の保育料に対するみなし控除適用は政府にも動きがあり、本市としてももう実施しないわけにはいかないと思われるがどうか。
２　教育行政について	（１）４８学級を超える小中学校については、千葉県教育委員会が実践に基づき効果を確認し、導入・拡大してきた少人数学級をやめ、国の規定（１学級４０人）に戻すとした方針について ア　県教育委員会とはどのような協議をしているのか。 イ　教育委員会議での審議時間は実質どれほどあり、どのような意見が出され、了承・決定されたのか。 ウ　現場の教職員への聞き取りはどのように実施され、どのような意見が聞かれているのか。 エ　少人数学級をやめる場合に配置するという担任サポートについて オ　小学校における特別支援学級数（５月１日時点）は２００７年９学級（全学級数の割合３．４％）から２０１７年３８学級（１０．５％）に設置数も割合も増加していることを考慮すれば、特別な支援を必要としている児童への丁寧な対応をするほど、普通学

	級は少人数学級にできなくなり、特別支援学級は１つの教室を２学級で使用するなどの結果をうみだすことになるのではないか。 （２）１２月に実施された保護者説明会同様に、流山おおたかの森駅周辺で児童が急増している各小学校の教職員にも説明会を実施し、学校毎で異なる現場の課題を共有すべきだがどうか。 （３）新設中学校の建設規模等の課題及び既存校との学区変更について問う。
３　初石駅東口改札について	（１）２月３日初石公民館での意見交換会では、説明員３人、参加者７人（うち議員２人、市職員１人）で、１時間もかからず終わった。いつ計画され、どういう狙いや目的があったのか。２０１０年第４回定例会では当時の都市計画部長は「地域の世論の醸成が東武鉄道を動かす上で不可欠」と答弁しており、市の姿勢に課題があるのではないか。 （２）市有地の形状や柏行きホームにおけるラッシュ時の利用実態から地平駅とし、入出場可能で簡易的な改札という市の方針は、市有地内に現在の道路の高さからアクセスする階段やスロープ、屋根、自動改札機を整備する以外にないと思われるがどうか。